=市史編さん便り=　【第 11 号】 令和 3 年 6 月 11 日（金）発行.
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

市指定文化財（天然記念物）貝ノ川大樟と国重指定文化財（天然記念物）松尾アコウ大木の診察

標記の樹木に元気がなく大丈夫だろうかと、文化財審議会委員で文化財巡視委員を兼任されている富田無事生委員と貝ノ川郷地区溝渕雅有区長から生涯学習課に相談がありました。

このことについて高知県教育委員会に相談のうえ、一般社団法人日本樹木医会高知県支部長木山徹樹木医と同支部廣瀬奈美樹木医に今月 10 日（木）午後から診察をしていただきました。その結果、次のような診察結果でしたので、報告します。

【貝ノ川大樟】

幹部分に空洞ができ、その空洞から続く枝の一部分が枯れている。アコウが着生し、大樟の幹部分に根をおろしている。

➡大樟周辺の木を少しずつ間引き、競合する根を減らすことが大切である。幹の空洞部分は乾いており、腐食が進行することはないだろう。境内の土は状態が良く、水はけもよいことから心配はない。葉も元気である。着生しているアコウは伐採した方

がよいだろう。その際に根を剥がすときに、大樟の表皮をできるだけ傷つけないように留意すること。

【松尾アコウ自生地の大アコウ】

木全体に元気がないように感じられるが大丈夫だろうか。生涯学習課の文化財パトロールの中で報告された。

➡下図の一本の枝が腐っており、キノコが生えている。この枝は伐採した方がよい。その他は問題なし。

これらの診察結果をもとに文化財審議会で協議した後に、地区にも相談し、処置をしたいと考えております。特に、国指定文化財である松尾アコウの大木については、高知県教育委員会を経由し、文化庁に許可を得たうえで対応していきたいと思います。

「十二支」と「風の方向・呼び方」

ジョン万次郎の漂流・鳥島漂着・救助されて米国生活・捕鯨・金採取・琉球上陸までの経緯を土佐藩絵師河田小龍がまとめたのが『漂巽紀畧』である。これについて県立坂本龍馬記念館が冊子を刊行したり、土佐史談会関東支部の北代淳二氏が監修して単行本を発行している。これらの書籍は、専門的過ぎず、一般の方にも比較的読みやすく解説・意訳をしてくれている。

この中に、万次郎らが乗るカツオ船が、足摺沖で遭難する様子を描写している場面

でいろいろな風の呼び方が登場する。一例を挙げると、「乾風（あなかぜ）」「艮吹（こち）」「戌亥の風（いぬいのかぜ）」「坤（しら）」等が出てくる。

「乾風（あなかぜ）」は乾（いぬい）の方向（北西）から吹く風、「艮吹（こち）」は艮（うしとら）の方向（北東）から吹く風、「戌亥の風（いぬいのかぜ）」は戌の方向（西北西）から亥の方向（北北西）より吹く風、「坤（しら）」は坤（ひつじさる）の方向（南西）から吹く風を指す。

＊北東は、丑と寅の中間なので、艮（うしとら）。同じく南東は巽（たつみ）、南西は坤（ひつじさる）北西は乾（いぬい）と呼ばれた。

東西南北とともに、十二支で方向が表され、360 度を 12 等分し、真北を子として、時計回りに十二支が当てはめられて経線のことを子午線と呼ぶのもここからきている。時刻も方位と同じく十二支で表し、日出と日入を基準に昼夜をそれぞれ六等分、計十二分割し、さらに約二時間を四刻に等分する。「子の刻」「午の刻」を「九つ刻」、「丑の刻」「未の刻」を「八つ刻」、「寅の刻」「申の刻」を「七つ刻」、「卯」「申」を「六つ刻」…と「四つ刻」まで数える方法もあった。

【編集後記】

学校教育史を担当している谷岡暁美編集委員から連絡があり、明治期の学校分布図、昭和 29 年市制発足当時の学校と保育園分布図、令和元年度時の学校と保育園分布図の三種類の分布図下書きをいただきに汐見町のご自宅を訪問した。

その日は、お気遣いいただき、手作りの韓国風ピリ辛スルメをタッパにおすそ分けいただき庁舎に帰ってきた。次の日からイラストレーターソフトで分布図のデジタルトレースを精力的に進め、すぐに仕上げることができた。この図を見ると、明治から現在までの教育機関がどのように地域的に分布しており、現在どのように減少しているのかが手に取るように分かる。さっそく谷岡委員のご自宅にデータをお持ちし、現在赤ペンを入れていただき校正中である。

また、市史編さん室・吉本職員により昭和 30 年代から現在までの小中学校の児童・生徒数の折れ線グラフも作成した。これを見てもどのように土佐清水市の子どもの数が推移してきたかが一目で分かる。学校教育史の執筆は、「清水の教育」にとってその歴史を振り返るよい材料になると思う。特に、かつて中学校教諭・教頭・校長と第一線の教育現場で指揮を執ってきた谷岡委員の視点からの学校教育史は注目に値する。

話は変わるが、谷岡委員にいただいた韓国風ピリ辛スルメは旨味が凝縮し、その晩のビールが進んだ。後でそのレシピを習いたいと思う（笑）。やはり手作りの味は、なんともいえないやさしい味がする。私たちの新『土佐清水市史』も執筆委員一人ひとりが丹精込めて作った手作りの書物である。